

事業所支援プログラム

(事業所名：すまいるキッズ)

項目 (5領域)	ねらい	支援目標 (具体的な到達目標)	支援内容 (内容・支援の提供上のポイント・5領域との関連性等)	具体的なプログラム
「健康・生活」	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態の維持 改善生活のリズムや生活習慣の形成 基本的生活スキルの獲得 	①健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。 その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。	・来所時に検温、挨拶時の様子、表情から健康状態を把握する。
		②健康の増進	睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。 また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、 自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。	・生活リズムの聞き取りを行い、必要に応じて生活リズムを整えるための方法を提案する。 ・「食べる事の発達」についての情報提供および、口腔機能、操作、偏食、それぞれの困り感に対してサポート方法を提案する。
		③リハビリテーションの実施	日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもの適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。	・各スタッフの評価に基づき活動を設定する。育ち、特性に応じたコミュニケーションを図る。
		④基本的な生活スキルの獲得	身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。	・生活動作に繋がるあそびの経験をしてもらう。保護者に対して家庭での取り組み方法を段階付けて伝える。
		⑤構造化等により生活環境を整える	生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。 また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	・特性に合わせて音や物が刺激とならないよう環境設定をする。分かりやすいように視覚的な教示をする。
「運動・感覚」	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢と運動・動作の向上 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 保有する感覚の総合的な活用 	①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化などに関する支援内容を立案し、実践していく。	・からだの発達にあった十分な運動 (サーキット・体操・ボール遊び・風船遊び等) ・姿勢保持が難しく、集中が続かない場合は活動時に静と動の動きのメリハリをつける。
		②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合があれば、様々な補助用具等の補助手段を活用して支援する。	・はさみ・筆記用具等、道具の工夫の提案。
		③身体の移動能力の向上	自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のために、運動に関する支援プログラムを実施していく。	・からだを使う活動、ふれあい遊び・感覚あそび等を通して様々な体の構えや姿勢を体験する。
		④保有する感覚の活用	子どもの発達段階及び特性に配慮した、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。	・児との関わりの中で聴力・視力・斜視が気になった場合は受診等を勧める。
		⑤感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。	・感覚特性に応じた環境設定、道具の使用の提案を行う。
		⑥感覚の特性 (感覚の過敏や鈍麻) への対応	感覚や認知の特性 (感覚の過敏や鈍麻) を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の提案及び支援を行う。	
「認知・行動」	<ul style="list-style-type: none"> 認知の発達と行動の習得 空間・時間・数等の概念形成の習得 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 	①感覚や認知の活用	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促すために、制作活動や身体遊び等を取り入れながら、支援を行う。	・体験を通して認知機能の発達を促す (散歩・製作等) ・動きながらの活動から机上活動まで児の状態に合わせた活動を設定、その中に具体物・抽象的な物を組み込み触れる機会を作る。 ・「考える」→「出来た」を経験できる遊びを提供する。
		②知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。	・ブロック等を使用し、数・形・色に親しむ遊びを提供する。
		③認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。	・保護者の心配・困り・疑問に対して児の特性をふまえ、行動の理由を伝え家庭で出来る環境 (人・もの・空間) の調整の仕方について提案していく。
		④数量、大小、色等の習得	子どもの発達段階に対応した数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための具体的な働きかけなどの支援を行う。	・児の様子、保護者からの問診等から行動理由を検討し、必要な調整方法を提案する。
		⑤認知の偏りへの対応	認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように環境調整や支援者の関わり方の指導や調整を行っていく。また、保護者に対しても 個々の特性に関する情報を伝え、こだわりや偏食等に対する家庭での具体的な支援を提案していく。	
		⑥行動障害への予防及び対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	
「言語・コミュニケーション」	<ul style="list-style-type: none"> 言語の形成と活用 言語の受容及び表出 コミュニケーションの基礎的能力の向上 コミュニケーション手段の選択と活用空間・時間・数等の概念形成の習得 	①言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。	・理解表出言葉レベルを確認し発達に合った声かけ、言葉の広げ方を行う。 ・絵カードや写真・絵本、および実験を通してものや動作と言葉の結びつきを図る。 ・言葉以外の手段を使って情報を伝え合い、相手に伝える・伝わる経験をする。
		②受容言語と表出言語の支援	子どもの発達段階に応じた話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	・人への注目を促す。玩具の提示位置、遊び方で注目・指さし・もう一回の要求を促す。
		③人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。	
		④指差し、身振り、サイン等の活用	子どもの発達段階に対応する、指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう環境及び関わり方の調整を実施する。	・道具等の環境を調整し「出来る」を保障した上で、姿勢・目・操作の発達を促す。 ・文字への興味、書き、模写、なぞり書き、形の捉え方を確認する。 ・コミュニケーションボードやYes・No反応、身振りの表現を促す。
		⑤読み書き能力の向上のための支援	発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	
		⑥コミュニケーション機器の活用	各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	
		⑦手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用	手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。	
「人間性関係・社会性」	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わり (人間関係) の形成 自己の理解と行動の調整 仲間づくりと集団への参加 	①アタッチメント (愛着行動) の形成	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	・児の発達段階や特性をふまえ保護者にも遊びに参加をしてもらいながら「楽しい」「まだしたい」を共有してもらう (親子遊び・手あそび・ハビーマッサージ・わらべ歌等)。
		②模倣行動の支援	遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	・あそびの発達の状態を把握した上で発達を促す関わりをする。
		③感覚運動遊びから象徴遊びへの支援	感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	
		④一人遊びから協同遊びへの支援	周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	・年齢や対人意識の広がりに応じて大人との関わりだけでなく、子ども同士のやりとりを設定し、日常に近い形での適切なコミュニケーションの機会を提供する。
		⑤自己の理解とコントロールのための支援	大人を介して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。	・行動→振り返り→次の行動を考え、自己認知を深める働きかけを行う。
		⑥集団への参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	・一斉指示を聞いて理解しながら活動参加を行い、大人や友だちと過ごす楽しさを知ってもらう。